

no.1  
2018. 3. 30

# 藤 木 卓 一 郎 の

# いいこと新聞

今回の  
視点

## 再生! 佐賀県医療センター 好生館の今。



中川原理事長とタッグを組んで

### 【前語り】

とにかく現在の好生館はすごい!いきなり余談ですが、かつて県政のお荷物と言われていた県立病院好生館、有明佐賀空港、そして佐賀競馬場どれもV字回復どころか今では県内有数の優良施設に育ちつつあります。後者施設については追って報告させて頂くとして、今回は県立病院好生館改め佐賀県医療センター好生館のことであります。

### 【好生館再生のポイントになったもの】

好生館再生の契機とは?一言でいえば、まず、平成22年、西暦2010年県直営の病院経営から病院自体で経営できる\*地方独立行政法人化『通称独法化』を果たした事。

もう一つはかつて本県の医療統括監として活躍された十時忠秀氏また千葉県がんセンターのセンター長を

歴任された中川原章氏(現理事長)という二人の優れた病院経営者に巡り会えた事に尽きると思います。最新鋭の医療機器を有し快適性を備えた好生館の新築による効果、または道路アクセスや駐車場の問題を抱えた水ヶ江からそれらを大きく克服した現在の嘉瀬町への移転による効果等、それら相乗効果ももちろんあります。

ちなみに有名な中川原現理事長は鳥栖市にある九州国際重粒子線がん治療センターの理事長でもあり、この度2018年比較腫瘍学常陸宮賞というとんでもない賞を受賞されるなど研究者としても癌研究の世界的権威なのです。そして実に残念なことですが、この度、この稀有な経営者であった中川原理事長は好生館での4年間の活躍をもって退任され、九州国際重粒子線がん治療センターの理事長に専任されることになりました。そして改めて唐津出身で東大医学部長及び副学長まで努められた桐野高明氏が就任されることになり、これからの好生館の発展は半ば桐野氏の経営手腕に託された形になりました。

\*地方独立行政法人化 これは佐賀県直営の病院経営から経営権を好生館自体に委譲する代わりに好生館理事長の任命権は佐賀県が持ち、病院経営における補助金(政策医療費)の交付及び議会の同意を得て県が作成した4年に一度の中期計画を付与する事をもって病院を間接的にコントロールするという経営手法

### 【好生館の成功指数】

それでは現在この病院がどれくらい成功しているかをお教え致します。独法化後、特に嘉瀬に移転後の好生館の活躍は本当に目を見張るものがあります。例えば医師看護師等の職員数で見ると県直営であった平成21年713人から平成29年度現在では1,100人と387人も増加しました。これは施設、人員両面においてそれだけ多くの患者を受け入れることが可能になったという事であり、結果、平成21年時には約22万人だった外来患者数が平成28年度では約27万人と、なな、なんと!年間5万人も増えた結果になっているのです。

経営的側面から見てみますと独法化以前、毎年3億円程度の赤字を出してきた県病院は独法化後の現在、7年で約47億1千8百万円もの黒字を出しているのです。建設時の借入金も計画的に償還され



藤木卓一郎の  
いいこと新聞

ていますから、そういう意味ではかつてあった県政の負の課題としての好生館という見方は現在においては全く当たりません。それどころか県民の命と健康を守る県内最大級の厚生財産として評価されるべき存在になったと見るべきなのです。

【好生館の課題って、なに?】

そうはいいながらも、好生館にはいくらかの課題があります。まず、病院内の職員駐車場の数が明らかに不足していること。扇町交差点が朝方いつも渋滞するのは有明海沿岸道路の現在の終点、嘉瀬南インターからの車両が多いからだけではありません。好生館の約300人の職員が扇町交差点北側の民間駐車場にお世話になっていることも大きな要因なのです。そういう事情から現在、好生館の東側に約500台分の駐車場用地約2haを確保しようと致しております。またこの敷地を駐車場のみを使用するのはもったいないので、これを使って他の医療施設、例えば将来県立総合看護学院などを、設置する事も一つの案として考えられます。

また当初想定したよりはるかに多くの患者さんが来院される結果、手術室が不足し、尚且つ手術後、次の入院患者の為になるべく早く退院してもらおうのですが、受け入れ病院も



足らずにいます。また受付の待合室が大変手狭ですし、この病院に相応しいしっかりとしたレストランや喫茶が必要です。

また癌という病が今後いよいよ佐賀県民を苦しめることになるならば、好生館内にがんセンターを設置するのの一つの考え方でしようし、現に県民の強いニーズに対して緩和ケア病棟も足りておりません。これから施設整備も又何とかしなければならぬ好生館の大きな課題の一つだと言えます。

【好生館を嘉瀬町に決めた本音】

近い将来、有明海沿岸道路という自動車専用道路が鹿島から大牟田まで開通します。そしてこの道路上にある嘉瀬南インターの東へ数百メートル先に佐賀ジャンクションというこれまた佐賀唐津道路という佐賀と唐津を結ぶ自動車専用道路との交差点ができるのです。これからの県民は普通に唐津から大牟田へ。鹿島から大川へとそのジャンクション(交差点)を経由してもっと広域にもっと手軽に車での移動を楽しむのです。そしてその佐賀ジャンクションからすぐ北のインター、それが国道207号線上、嘉瀬地区にある小池病院から東に約300メートルの地点に設置される仮称嘉瀬北インターであります。近い将来好生館はそのインターを通じて佐城地区を超えてもっと広域的に利用できる病院になります。そしてそれこそが好生館をこの地に設置した私どもの本当の狙いだったのです。

【私の好生館に賭ける思い】

父は県病院で亡くなりました。最後まで家族みんなで闘い抜いた思いで深い病院です。私は一人でも多くの方に好生館を通じて命が助かって欲しい。県政を通じてこの病院をさらに良きものに変えて行く。それが政治家としてまた父の子としての私の強烈な自負なのです。



ふじき 卓一郎 たくいちろう



ぼくはいつもあなたの傍らにいます。取り組んでほしい事などありましたら、遠慮なく藤木にお声をお掛け下さい。

藤木卓一郎 後援会事務所

- 電話 0952(73)3243
- ファックス 0952(73)3064
- メール fujiki@b2.bunbun.ne.jp

〒845-0033 佐賀県小城市三日月町樋口字江口227番地